

文部科学省 高等教育局長
伯井 美徳 様

要望書

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う 日本語教育機関への支援について

日本語教育機関関係 6 団体の活動に対し、ご理解とご尽力を賜り、心より感謝いたします。現状を踏まえ、要望書を下記の通りまとめましたので、宜しく願い申し上げます。

(1) 今年度受験予定の留学生への配慮のためのご指示

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、大学、専門学校等進学先の今年度の受験がどのように実施されるのか、日本語教育機関の留学生、教職員大変不安を感じております。また、6月の日本留学試験も中止となり、例年の前提が様々な面で崩れております。大学等も先行きが不透明な状況である中での判断になると思いますが、下記の項目について、文部科学省より大学等にご指示いただけますようお願いいたします。

- ・日本人学生に対して受験時期の延期をするのであれば留学生も同様に受験の時期を延期
- ・今年度の受験の方針が決まり次第、速やかな受験スケジュール、試験内容等の詳細の周知

(2) 遠隔授業の実施に必要な環境整備の推進に係る整備費の補助

令和2年度補正予算（第2号）が閣議決定され、専修学校に対しても遠隔授業の実施に必要な環境整備の推進の為に整備費の補助が含まれました事は、専門学校にとっては誠に喜ばしく感謝申し上げます。しかしながら、第二波第三波も懸念される環境下では、他の教育機関と同様に、遠隔授業環境整備の必要性は全ての日本語学校にとっても必要不可欠なものとなっております。もちろん、留学生という立場で平時において遠隔教育が許され無い事は当然ではありますが、今後アフターコロナの国際的な環境下では、日本留学前段階での遠隔教育は優秀な留学生確保の視点からも是非推進しなければならないものと考えております。現在の感染症対策と併せ、今後の日本留学政策の観点からも、日本語教育機関に対して遠隔授業実施に必要な環境整備のための何らかの補助制度創設をご検討頂けますようお願いいたします。

(3) 9月入学について

9月入学の影響は多岐に及びますので、慎重に議論をお願いいたします。

入学時期の移行は、卒業時期の移行でもあり、日本に留学を目指す留学生、保護者、日本語教育機関、その他日本語教育関係者にとって、日本を留学先として選ぶ上でも大きなポイントになると考えられます。秋入学は、現状の日本社会の制度を大きく変えるものであり丁寧に作り上げる事が重要なので、日本全体で慎重に審議し周知調整していく事が望ましいと考えます。また、日本語教育機関の入学時期は各教育機関によって異なりますが、通常年2回（原則として4月、10月）又は年4回（原則として1月、4月、7月、10月）となっておりますが、秋入学となれば卒業時期についても新たなコース設定等も考慮しながら、再検討しなければならず、相当な時間を要することをご理解ください。

(4) 文部科学省高等教育局と日本語教育機関との定期的な連絡会の設置

語学教育の特徴を踏まえた日本語教育機関のあるべき制度設計について、是非定期的な意見交換を行わせていただきたいと思います。定期的な連絡会の設置をお願いいたします。

(一財) 日本語教育振興協会
理事長 佐藤次郎

(一社) 日本語学校ネットワーク
代表理事 大日向和知夫

(一社) 全国各種学校日本語学校協会
理事長 吉岡正毅

(一社) 全国日本語学校連合会
理事長 荒木幹光

全国専門学校日本語教育協会
会長 深堀和子

(一社) 全日本学校法人日本語教育協議会
代表理事 江副隆秀